

#### 演題 24. 当院の過去 4 年間の血液培養検出状況

○今井由佳里 高橋弘志 秋倉史 岩間暁子 嶋野美和  
(君津中央病院微生物検査室)

[目的]血液培養は施設の特徴によって陽性率・分離菌は違っている。新病院開院後 4 年経過したので分離菌率・陽性時間の状況について報告する。[対象]2003 年 7 月～2007 年 6 月の血液培養 8375 件,内陽性 1044 件について検討した。[方法]自動血液培養装置は BCTEC9240&9120(BD)で好気ボトル 92 F, 嫌気ボトル 93 F を 7 日間培養。同定・薬剤感受性検査には Phoenix100 を用いた。[結果]当院の 4 年間の血液ボトル陽性率は 12.5%で, 年度別では 2004 年 11.9%, 2005 年 13.3%, 2006 年 11.3%で推移している。菌種別では *E. coli* : 13.3%, *S. epidermidis* : 13.2%, その他の CNS : 9.0%, MRSA : 7.9%であった。腸内細菌属では 32.3%, CNS : 22.2%, *S. aureus* : 12.0%で約 7 割を占めていた。陽性の平均時間は 22.0h で, 菌種別の最短は *K. oxytoca* : 12.1h, *S. pneumoniae* : 12.7h, *K. pneumoniae* : 13.9h, *E. faecalis* : 14.9h, MSSA : 16.7h, MRSA : 17.9h, *E. coli* : 18.7h, CNS : 21.6h であった。陽性になるまでの時間は 6 時間まで 2.4%, 9 時間 8.2%, 15 時間 47.4%, 24 時間 77.0%, 27 時間までで 81.1%であった。他材料検出菌との菌一致は、691 陽性検体と前当日検体 323 件(46.7%)が提出されており, 検出菌との一致状況は、323 検体中 169 件(52.3%)で菌推定が可能であった。内訳は尿検体 55、カテーテル関連検体 43、喀痰(塗抹を含む)39、胆道系 12、創部膿 10、尿中抗原 7、髄液 6、その他 7 であった。一致検体の得られない例 154 件(47.7%), 他材料の培養が行われていない 368 件(53.3%)であった。[考察] 自施設の血液培養検出菌率は感染症かを見極める上でも大切である。また菌発育時間からでは起菌菌かを判別することは難しく、他材料のグラム染色や抗原検査、培養検査からの菌種の推定を判断に用いることは有効と思われる。0438-36-1071(内)3342